

— 1980: Turbulent mixing within tropopause folds as a mechanism for the exchange of chemical constituents between the stratosphere and troposphere, *J. Atm. Sci.*, **37**, 994-1004.
 Sticksel, P.R., 1976: Application of 1976's ozone sounding information to 1970's surface ozone studies, *Proc. Int. Conf. on Photochemical*

Oxidant Pollution and its control, EPA Report No. EPA-600/3-77-001 a.

Wolff, G.T., M.A. Ferman and P.R. Monson, 1979: The distribution of beryllium-7 within high pressure systems in the eastern U.S. (解説 “Atmospheric mixing” *Env. Sci. Tech.*, **14**, 15-18).

ヘス教授の御逝去を悼む

米フロリダ州立大学教授(気象学)ヘス博士(Seymour L. Hess)は本年1月15日、病のため同大所在タラハシーのメモリアルメディカルセンターで永眠された。享年61。

教授は世界的に有名な気象学者で、その著“Introduction to Theoretical Meteorology”は標準的な教科書の1つとしてよく知られている。ニューヨークのブルックリンに生まれ、ブルックリン・カレッジを経てシカゴ大学で、M.S. および Ph. D. をえられた。いわゆるシカゴ学派の初期の一人としてジェット気流の発見・解明に大きな貢献をされ、その後新設のフロリダ州立大学気象学部にむかえられた。同大では新設学部の発展、学生の教育に力をつくされると共に、惑星の気象学、特に火星のその研究に没頭された。この間、火星をめざすアメリカの Viking 計画の気象班リーダーをつとめられ、その功により1977年、アメリカ気象学会より Viking Flight Team Special Award を、また NASA よりメダルを授けられた。フロリダ州立大では気象学部長(同大では Chairperson といっている)の任にあられた。

筆者は1954年、いわゆるフルブライト留学で同大気象学部大学院に入学、博士の講義をうけた。海洋学が専攻だったが気象も必須だったのである。白せき長身の先生は Physical Meteorology を担当された。当時、気象学部長はバウム(Werner A. Baum)の下にヘス、気象力学のシャーマン(Leon Sherman)、解析のラスール(N.E. LaSeur)、気候のグリーソン(Thomas A. Gleeson)



火星の地図を示すヘス教授(フロリダ州立大学の1980年版案内による)。

と、30をやっと出たばかりのおもにシカゴと UCLA 出の新進気鋭の教授をそろえ、清新の気にあふれていた。日本と同じようにアメリカでも気象学や海洋学の講座はもと物理、天文の教室に属していたが第二次大戦中にこれが独立の学部、教室になり東のシカゴ大では C.-G. Rossby、西の UCLA では J. Bjerknes 指導のもとに多くの優秀な人材をうんだ。ヘス教授の講義は現象の物理的意味、説明を重視し、too mathematical ともいえる故シャーマン教授の Dynamical Met. と対照的であった。“Richardson の失敗”から始まる数値予報のユニークな特別講義も忘れられない。わが国で同教授の指導を受けた気象学者、海洋学者も数多い。

(半澤 正男)